

2018年10月3日

## 気象集誌/SOLA 合同特別号「2017年・2018年の豪雨イベント」論文募集

気象集誌編集委員会  
SOLA 編集委員会

下記の通り、同一テーマ「2017年・2018年の豪雨イベント」での気象集誌（JMSJ）特集号・SOLA 特別号への論文投稿を募集いたしますので、ふるってご投稿くださいますようお願いいたします。

### 記

#### (1) テーマ「2017年・2018年の豪雨イベント」

##### “Extreme Rainfall Events in 2017 and 2018”

2018年7月に発生した豪雨（平成30年7月豪雨）では、台風7号や前線活動により、西日本を中心に全国の広い範囲に及んで記録的な大雨が発生し、各地で洪水・氾濫・土砂流出が引き起こされ、200名を超える犠牲者が生じるという近年では最悪の災害となった。さらに、豪雨の後には記録的な猛暑となり、異常気象が続いた。また、1年前の2017年7月には、九州北部を中心に豪雨が発生し（平成29年7月九州北部豪雨）、長時間持続するメソ降水系により洪水・氾濫・土砂流出・流木により大規模な災害が生じた。これら豪雨を引き起こした主要な現象は、線状降水帯と呼ばれる積乱雲が線状に組織化した対流系である。線状降水帯は、停滞前線や台風に伴ってしばしば発生し、過去の顕著事象を対象とした事例解析はなされているものの、その実態や発生機構、さらにはどういった気象条件のときに発生するかといった点はまだ十分に調べられてはいない。特に、平成30年7月豪雨のような顕著現象の場合には、地球規模からメソスケールまでの様々な時空間スケールの気象場が複雑に絡み合い、様々な規模の気象場の影響を受けて豪雨が発生するものと考えられる。さらに、こういった顕著現象に及ぼす気候変動の影響も無視することはできないであろう。本特集号・特別号では、平成30年7月豪雨、平成29年7月九州北部豪雨といった最近の豪雨イベントと関連した異常気象を中心に、豪雨や異常気象の発生要因、線状降水帯などメソ対流系の実態や発生機構、豪雨や異常気象の予測可能性、気候変動の影響といった問題に関連した論文を募集する。

#### (2) 論文投稿

以下のオンライン投稿システムから論文投稿をお願いします。投稿時に、システム上で特別号「Extreme Rainfall in 2017/2018」を選択してください。また、カバーレターにも本特別号向けの投稿であることを明記してください。

JMSJ: <https://mc.manuscriptcentral.com/jmsj>

SOLA: <https://mc.manuscriptcentral.com/sola>

スケジュールは以下の通りです。

投稿締切：

SOLA：2019年3月31日

JMSJ：2019年8月31日

出版：

JMSJ：2019年度内：受理論文から順次通常号に掲載し、WEB上で virtual collection とする。

SOLA：2019年内（Volume 15A）

なお、JMSJ と SOLA の合同特別号企画の特典として、論文掲載料 Article Processing Charge (APC)の通常額から、JMSJ の論文（Article）は5万円、JMSJ の要報（Note）は3万円、SOLA の論文（Article）は2万円ずつ減額いたします。

### （3）編集委員会の構成

委員長：

竹見 哲也（京都大学）

副委員長：

佐藤 正樹（東京大学）、堀之内 武（北海道大学）、三好 建正（理化学研究所）

委員：

JMSJ および SOLA 通常号の編集委員会委員

ゲスト編集委員：

清水 慎吾（防災科学技術研究所）、清野 直子（気象研究所）、伊藤 純至（東京大学）、  
松本 淳（首都大学東京）

以上